

倫理委員会議事録

1. 開催日時 平成22年8月26日(木) 17:50～18:20
2. 開催場所 第一会議室
3. 出席者 橋本副院長、黒木臨床研究部長、山崎事務部長、宮平看護部長、
八尾生化学研究室長、松本臨床検査技師長
古賀委員(外部委員)、山田委員(外部委員)
(記録)管理課長
4. 審議課題 以下の課題につき、別紙申請書に基づいて代表者から研究内容の
説明があり、委員からの質疑の後、審議結果となった。

受付番号22-6

課題名 「強度行動障害を伴う動く重症心身障害児・者の専門的療育の類型化」
について

代表者名 療育指導科長 會田 千重

質疑内容

- ・ 診断、個別療育内容を審査するのか。
→ 診断や状態像に応じた適切な療育と言うがガイドラインがないので整備できればという主旨である。
- ・ 生活自立レベル等は調査しなくて良いか。大島分類とか高度障害スコアで解るのか。
→ 基本的には診断と発達指数が重要となると思うが、運動機能や発達指数からある程度推測できる。
- ・ 同意を得る方法で同意能力がない方から成年後見人となっているが問題ないのか。
→ このような研究を今年度行うという用紙を用意して、1年1回契約する時に家族へ説明する。基本的には同意を得たということになるが再度徹底したい。
- ・ データーは当院で取りまとめるのか。
→ 南九州病院に集めて分析を共同でやる。
- ・ データーは紙ベースか。

→今までは入力したデータをエクセルで作ってインターネットで送ってもらっていた。

- パスワードでセキュリティかけてやり取りするということか。
→そうである。
- 主任研究者は佐々か佐々木か。
→佐々木征行先生です。

審議内容

- 承認が良いが条件付なのか却下なのか。
- 特別な文書までは必要ないと思うが承認が良いか。
→了解

審議結果

承認

受付番号 22-7

課題名 国立病院機構精神科病院における2005年度他施設共同患者調査の追跡調査（JESS005追跡調査）について

代表者名 リハビリテーション科医長 岩永 英之

質疑内容

- ・ 当院での対象者は何名か。
→ 5年前の調査票はあるが確認はしていない。今は200名ぐらいいると思う。
- ・ 5年前に当院で治療を受けた人が5年後ということか。5年というのは何か意味があるのか。
→ 2000年、2005年、今年が2010年となり5年区切りとなっている。
- ・ 5年前に入院していた患者が9月1日すでに退院している場合はどうなるのか。
→ 5年の間に退院しているかどうかを調べる。（2005年9月1日以降退院しているか、退院した日付と再入院しているかどうか。）
- ・ 追跡調査ということであれば自宅に電話して聞き取り調査をするのか。
→ そこまでは考えていない。
- ・ 整理した方が良いのではないか。（家族に確認して今どこにいるか）
- ・ 追跡調査票8. では死亡しているか、生存しているか聞かないと分からないのではないか。
→ 分からない人は不明になってしまう。病院に通っていない人とか他の病院に移っている方も不明となる。
- ・ 今回が最後の調査になるのか。
→ 今回は追跡調査だけである。2000年から2005年は入院患者全員の調査をしているが今後はその調査も依頼がくるのではないか。
- ・ 薬物療法との多剤耐性投与の貢献度のデータは突き合わせるのか。
→ 2005年に突き合わせしている。
- ・ カルテを当てるのが大変と思うが。
→ 2005年は各主治医にお願いした。（外来は岩永が行った。）

審議内容

- ・ 受け継がれた班研究である。長くなればなるほど確認しにくくなる。死亡の転帰を図ることが可能かどうか。可能だとして意義があるのか疑問が残るが、以前から同様の調査をやっているのは確かである。
- ・ 承認で良いか。
→ 了解

審議結果

承認